

秋の自然観察会・双ヶ丘のキノコ の報告

実施日時 令和4年10月16日

集合 JR 花園駅 駅前広場

講師 佐野修治（関西菌類談話会会員）、西田和美（一社 日本山岳協会認定自然保護指導員）

行程 3.8km

9:00 花園駅前 9:08-9:14 三の丘登山口 9:21-10:28 とみおの広場-11:17 一の丘 11:35-11:48 こもれびの広場（昼食） 12:30 解散

気温 21℃湿度 64% 晴れ。

湯浅委員長挨拶

佐野先生挨拶



47 年間御所でキノコ観察会をしてきた。キノコは植物よりも動物に近いことが分かってきた。キノコの生活、キノコの生き方について観察したい。

移動中、街路樹に変形菌、キクラゲ(木耳)は雨を待っている。表面は茶色でなめらか、背面は白。

路地を抜けて、三の丘の登り口に着くと「名勝 雙ヶ岡 昭和 17 年 3 月」の石碑がある。雙ヶ岡が正式の漢字らしい。ここで猛毒のキノコ、カエンダケの説明があった。触ただけで皮膚炎になる。食べると死ぬ。酒につけて飲んだ人も死んでいる。弱ったナラの木につく。よく似たベニナギナタタケは食べられる。



山道に入ると丸太に木材腐朽菌がついている。白い菌糸はキノコの体であり、子実体は花である。地味なキノコの木材腐朽菌は丸太を食べて、土に返している。石炭紀（3 億 6 千万年前）には木材腐朽菌が地球上に存在しなかったので、樹木は分解されずに堆積された。

石炭紀が終わる頃（2 億 9 千万年前）、真菌が出現した。細菌は核をもたないが、真菌には核がある。真菌が遺体を分解して掃除するようになった。

コウヤクダケは広葉樹を食べる。セルロース、リグニンは菌類のみが分解できる。カワラタケ、カイガラタケはビロード状の頬ずりしたくなるような毛と裏に細かいひだがある。

人間は他者の命を貰って生きているが、生産はしない。三界説によると生物は動物、植物、菌に分けられるが、植物は生産者であり。動物は消費者、菌は分解、掃除者である。



シラゲアセタケ



ベニタケ



ヒビワレシロハツ

キノコには口がないが、酵素を出して体中で分解して自力で栄養をまかなっている。

サルノコシカケが松から出ている。サルノコシカケは広葉樹から出るものらしいが。針葉樹に生えるのはツガサルノコシカケ。これはガンには効かない。広葉樹に付くものは、クレスチンを含み癌に効く。しかしシアンを含むことが分かり、西洋医学では使わない。

ハナウロコタケ。

キノコを食べるには、キノコの採り方、採る時期、保存方法が大事。

ヒビワレシロハツは成熟すると多数のひび割れができる。ワヒダタケ、カンゾウタケ、シハイタケ（紫背茸）、ミイロアマタケ、ベニタケ、オツネンダケ、アイカワタケ。

大きな木から木くずがいっぱい出ている。昆虫が木をたべているようだ。



ムネタカオオアリは朽木に多い。

この辺りはドングリがいっぱい落ちている。

イグチ（猪口）は傘の裏に穴が開いていてスポンジ状。ヤマドリタケ。ニガクリタケ（毒）、ツルタケ（鶴茸 毒一本食べると成人が死ぬ）ここで先生はニセショウロの幼菌を切り始めた。縦に半分にすると断面は真っ黒。外皮は赤くなる。触ると弾性がある。少し匂い

がある。

先生の恩師吉見昭一氏は腹菌型キノコの専門家。最近の研究者は机上でDNA分析を

するようになり、現地を知らない。山を歩く人は野外のキノコに接して、発生源やキノコの一生を知っていただきたい。



ホウキダケの仲間。ホウキダケはホウキを逆さまにした形から、ネズミノアシとも呼ばれる。

ヒビワレシロハツ、ヒイロタケ、クロコブタケは仏様の螺髪（らほつ）のようで、こけたりしないお守り。サイワイタケ、ボタンイボタケ、ベニタケ、コウヤクタケ。



オオワライタケがあった。これは今昔物語の「尼共山に入り茸食うて舞う話」にも出てくる毒キノコで、幻聴、幻覚をおこす。

カキノミタケはふにやふにやした糸のような茸で、落葉のみならず、実と種まで土壌にかえす。

ここで、先生が強調したのは、キノコが木を弱らすことはない。何処かぐあいの悪いところがある木につく。キノコは木の健康度を示しているので、キノコは樹木の代弁者である。マツオウジ（松旺子）は松につき、ヒダがのこぎり状、ニアワビのような味。ホコリタケ、コツブタケ、ヒイロタケ。



一の丘を登り、カンゾウタケをみつける。英語でビーフ マッシュルームといって広く海外では食用にされている。



切って断面をみると厚みがあり、切っても子実体は成長する。顕微鏡でみると虫が一杯いたそうだ。裏はぎっしり詰まったホース状の管孔がある。

一の丘の頂上に登った。北に仁和寺が見渡せる。ここで記念写真を撮る。



こもれびの広場に下りて昼食になった。気温 27℃で暑い。

キノコの参考書

小学館 「きのこ」(ポケット板)

昼食後解散。

